

賛育会 2020年度事業報告

常務理事 中村 基信

世界的なパンデミックの中、経営方針と年間聖句「その賜物を生かして互いに仕えなさい」(ペトロの手紙一4章10節)に沿って、感染予防と対策をしながら利用者に寄り添うことを許された一年でした。また、豊野事業所が被災から立ち上がり、2021年1月に予定していた全事業を再開することができました。

I. 役員

再任: 島田 茂理事、高本 眞一理事、山田 公平監事

退任: 鈴木 正明理事(3月末)

II. 経営方針

1. 豊野事業所は、被災時に垂直避難が困難なグループホームを除き、すべての事業を再開しました。また、YMCA等と一緒に被災住民の集いの場として始めた「ぬくぬく亭」は、運営主体を住民に移行して継続しています。
2. 『105周年への約束「地域の課題にもっともっと寄り添える賛育会になる』を策定しました。体力づくり(安定経営)、知恵を育む(担い手育成)、仲間づくり(協働の輪を広げる)を実践します。
3. 経営体制を強化し、現行事業及び地域活動の継続と拡大に努めました。

(1) 地域に仕える働き

① 指定管理期間更新を受けました。

マイホーム新川(中央区:2021~2030年)

はなみずきホーム・たちばなホーム(墨田区:2021~2025年)

② 牧之原市の地域包括支援センターを受託

③ たちばな高齢者在宅サービスセンターを閉鎖

今後、建物は障がい者支援のために墨田区が使用します。

④ その他

子ども食堂や日本語教室、外国人留学生支援は継続しましたが、多くの地域活動やボランティア活動は感染防止を考慮して、原則休止しました。

(2) サービス向上の取組み継続

病院では発熱病棟設置や断らない医療、施設では「持ち上げない介護・認知症ケア・看取りケア」、保育園ではコロナ禍でのクラスや個人、家族を大切にされた保育を継続しました。

(3) 育成と採用

オンライン法人内研修参加者数延5,716名(前年比:2,119名増)

法人外研修参加者数 431名(同:275名減)

職員採用数92名(同:20名増)、退職は109名(同:9名減)
夜勤可能な介護職の採用が困難な状況は続いています。

(4) 経営改善と安定化

国や都道府県の災害時の補助金制度等を活用しながら豊野事業所復興計画に基づいて借入、返済を計画通り実行しました。

(5) 組織・運営体制

感染症蔓延の中でも理事会・評議員会をはじめ、事業所や施設の中でも委員会を随時開催して運営しました。診療体制が変わらず、東海診療所を年度末で休診しました。また、後援会を法人事務局組織に組み入れました。

(6) リスクマネジメント強化

感染対策の徹底、顧問弁護士による労務管理や事故対応研修を実施した他、マニュアルや規程の見直しも行いました。

(7) 募金や支援など

後援会の協力で特別募金を内外に呼びかけ復興支援に繋げ、YMCA等の関係団体と協力して熊本豪雨の被災者支援活動に職員を派遣することができました。清風園の56年間の働きが評価され、天皇陛下から御下賜金をいただきました。

【事業活動計算書】(単位:千円)*千円未満四捨五入

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動の部	収益計(1)	13,070,774	13,023,385	47,389
	費用計(2)	12,826,463	13,049,519	△223,056
	差額(3)=(1)-(2)	244,311	△26,134	270,445
サービス活動外の部	収益計(4)	89,552	100,714	△11,162
	費用計(5)	86,054	97,047	△10,992
	差額(6)=(4)-(5)	3,497	3,667	△170
経常増減差額(7)=(3)+(6)		247,808	△22,467	270,275
特別増減の部	収益計(8)	883,232	195,064	688,169
	費用計(9)	1,256,723	348,883	907,840
	差額(10)=(8)-(9)	△373,490	△153,819	△219,671
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		△125,682	△176,286	50,604

以上

*施設別報告等は各施設に備えられている2020年度事業報告、2020年度決算報告をご確認ください。

2021年度 賛育会役員・外部委員のご紹介



2021年は役員と苦情対応委員の改選が行われました。

【理事】任期2021年7月1日～2023年6月30日

理事長	小堀 洋志
常務理事	中村 基信
理事	柳沼 恵一
理事	高倉 鉄夫
理事	島田 茂 (福)富山YMCA福祉会
理事	田村 正徳 埼玉医科大学総合医療センター
理事	高本 眞一 (福)賛育会 賛育会病院
理事	小林利紀子 墨田区はなみずきホーム
理事	藤田 寿彦 (福)賛育会 法人事務局
監事	弥永 真生 明治大学専門職大学院
監事	山田 公平 (福)とちぎYMCA福祉会
監事	阿部 誠 (福)日本医療伝道会

【苦情対応委員】

大江 浩	(福)興望館
阿形 操	御前崎市地域医療を育む会
柴田 和子	墨田区保護司
阿部 優枝	(福)ベタニヤホーム
柴田 光昭	元賛育会理事・職員 特定非営利活動法人共働学舎
坂野 修一	特定非営利法人町田フレンズサポート
坂根 慶子	すみだ女性センター、墨田区教育委員会、すみだ社会福祉サービス、苦情調整委員会

【評議員】任期2021年6月30日

～2025年の定時評議員会開催まで

高林 眞理	(福)興望館(評議員)
廣田 光司	(一財)千葉YMCA
篠原 正雄	(公財)東京大学学生キリスト教青年会
阿形 操	御前崎市地域医療を育む会
酒井 薫	日本基督教団東駒形教会
柴田 光昭	元賛育会理事・職員 特定非営利活動法人共働学舎
菅谷 淳	(公財)東京YMCA
中村 義哉	帝塚山学院大学
塚本 文武	(一社)みのりの里
竹佐古真希	弘前学院大学・基督教独立学園高等学校
板崎 淑子	東京YMCA社会体育・保育専門学校 横浜YMCA健康福祉専門学校
坂根 慶子	すみだ女性センター、墨田区教育委員会、すみだ社会福祉サービス、苦情調整委員会
坂野 修一	特定非営利法人町田フレンズサポート
岩見 宣治	東京空港冷暖房株式会社



退任委員の皆様よりのメッセージ

賛育会評議員任期満了退任にあたって

木村 庸五

2017年に、19年間つとめた理事を退任しすぐに評議員となり早くも4年の任期が終了し、この6月に評議員を退任いたしました。「任期は定年に優先する」という決まりに従い、定年の75歳を3年弱過ぎてしまいました。1998年に理事となる前までの4年間評議員をつとめたことがありますので、合計27年間賛育会の役員をつとめさせていただきました。大した貢献もできませんでしたが、賛育会の活動を理解し、強い賛同の気持ちを持ちつつ役員をつとめを微力ながら果たさせていただきました。

創立以来の伝統をしっかりと受け継ぎながら、新しい課題に新しい手法で取り組んでいく姿勢でこれからも賛育会がその特色を伸ばしつつ活動を発展させていかれるよう祈念しております。これまでいろいろとお世話になりありがとうございました。

私は、まだしばらく後援会会長のつとめが残っておりますので今後も微力を尽くしたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

賛育会評議員退任にあたって

垣内 史堂

20余年にわたる賛育会評議員を退任することになりました。もともと学生時代に東大YMCA寄宿舎で5年を過ごしたので、先輩方が基礎を築かれた福祉施設として知っていました。20余年前に当時の川越病院長と植常務理事が当時の勤務先である東邦大学医学部に訪ねてこられて、評議員就任を依頼されたのが始まりです。東大Yにいた頃の先輩・仲間が苦勞しておられるので、何かお手伝いが出来るのであればとお引き受けしましたが、評議員会に出席するだけでした。

賛育会のみなさまが、地道に真面目に社会福祉に貢献されていることについて感謝するばかりです。今では理事長をはじめ、東大Y時代の友人が何人も賛育会に携わっています。私も、木村後援会長の下で副会長(名ばかりですが)として、もうしばらくつながりが続きます。

今後の賛育会の活躍を祈っています。

私と賛育会

中島 誠

賛育会の名前を初めて知ったのは、1963年に学生キリスト教青年会の寄宿舎に入った直後のこと。賛育会の紹介パンフレットを読んで、求道中の大学1年生としては、戦前の偉大な先輩方の高い志に圧倒される思いと、「自分にはとても及ばない世界」という印象が正直なところだった。そんな私が社会に出て、化学業界の企業で多忙な毎日を送っていた1998年、突然、木村庸五氏からのお電話で、「賛育会の評議員に」というお誘いがあった。また、当時、賛育会事務局でご活躍中の梶村慎吾先輩が、植清輔常務理事とご一緒に来社され、「医療も介護も何も知らないのに」とためらう私に、「いろいろな立場の人からの意見が大事」と勧めて下さった。

それから約20年間、評議員会や各種行事に出席して、多くのことを学ばせていただいた。とくに職員の方々の活動発表会で、「持ち上げない介護」「高齢者の誤嚥防止対策」など、現場のいろいろな工夫やご苦勞を知ることができ、大きな収穫だったと感謝している。

「賛育会と私」～評議員を終えて～

稲本 佑子

元職員の私は幹部候補生看護師として期待されながら寿退社しました。結婚イコール退職の時代に、事務長から通勤を勧められたのですが、体制が整っておらず叶いませんでした。その後は臨床から離れ、企業内で「心と体のメンタルヘルス」活動に、産業保健指導者、心理相談員として携わっていました。そんな時、当時の佐藤常務理事にお声を掛けていただきました。賛育会に貢献できなかった弱み？もあり評議員をお受けしたのです。それにしても実績のある皆様の群れに加えていただくにはささか気が引けましたが、常務日く「平民の声が聞きたい」と。その平民の声も殆ど発することも無いまま29年が経りました。

青春時代を過ごした賛育会の運営状況を知り、そのミッションに喜びを感じたことでした。今後の理事、評議員、職員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。そして新病院に会えることを願っています。皆さま有難うございました。

『隣人愛』『SEAP』に感銘

中山 勝子

『隣人愛』なんと優しい響きでしょう。聖書に出てくることばと知ってはいたものの自分のことばとして語ることはこれまでありませんでした。しかし賛育会は100年も前から、この隣人愛の理念を生かし、必要とする婦人と子どもの救済に尽くされた実績と、東京都において最も実績ある社会福祉法人であります。この『隣人愛』の理念を私も今後の目標として生きて参りたいと思います。

また職員の研修として取り組んでいる『SEAP』は、課題解決に向けて、解決策を探りだし、全事業所で共有するために、プロジェクターを使い、一定の時間でプレゼンテーションを行う、又この事業を法人がバックアップする事は、職員のスキルアップとして、高く評価出来る事業と感銘致しました。このように数ある高齢者施設の賛育会で学ぶ事が出来た事を非常に光栄に存じます。

賛育会が益々発展される事と皆々様のご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。有り難う御座いました。



2019年11月撮影



2021年3月撮影

希望

石井 嘉一郎

敬老の日になんで、喜寿(数え77歳)・米寿(数え88歳)を迎えた方に長寿者祝金を民生委員がお届けし、その福祉の増進を図る事業をしていた頃、大屋善治郎地区会長様より賛育会評議員のお話を頂きました。他に町会長・金融機関総代・本店懇話会会長・2園の保育園理事等を受けて居ましたので辞退致しましたが『考えて頂きましたか?』と何度か問い合わせをいただき、光の園保育園学校戦後第一回の卒園児として学んだ「隣人愛・絆と和」が蘇ってきて、私の真心を誘ってくれました。西原良信常務理事が我が家までお越し下さり、お引き受けしました。評議員・苦情処理委員、チャリティーコンサート委員も仰せつかるお話でした。最初の評議員会の資料が送付され、項目の多さに圧倒されました。10年間様々な事例を学び感謝の念で一杯です。私からのメッセージは、102年間様々な出来事があった事が「賛育会の百年」に記して有ります。発展に向けて此から行う事業を一瞬立ち止まり「石橋を叩いて事業を出行為て欲しい。」賛育会が人々から愛され、事業が発展することを祈念致します。

初めての評議員会

宮本 義彦

初めての体験というものは、強く記憶に残ります。ましてや高齢になってからのものは、なおさらです。東京清風園の地図の端に書いていただいた「東武亀戸線、東あずま駅下車」を頼りに、私にとって初の評議員会に向かいました。67歳の時でした。東京には縁のない田舎者ですから、墨田区へ定刻に着けるか心配で、用心して長野からは一番列車にしました。結果は早く着き過ぎです。おかげで東あずま駅周辺を広く歩いてみる事ができ、マイナス記号の付いた標高表示には、「オー」と声が出ました。

賛育会については、事前にいただいた資料以外、何も知りませんでしたが初めての評議員会は、すぐに馴染めました。多くのことを教えてもらえそうだったので。私の町の豊野病院の原点も感じられました。その後、毎年の職員研修会や創立100周年式典などに出席させていただき、その都度ワクワクしました。一昨年豊野大水害時、心のこもった支援が目に見えています。初めての賛育会の印象が変わることなく、9年間努めさせていただきました。

二十歳を迎えた相良清風園

2001年に開設した相良清風園は賛育会の中で最も若い特別養護老人ホームです。この7月1日で20周年を迎えることができました。当時の相良町（現在の牧之原市）最初の特別養護老人ホームとしての開設を県から打診され、大きな期待と支援を受けて誕生しました。

開設後に訪問介護や総合事業などの新たなサービスも加わり、昨年7月には牧之原市の地域包括支援センターを受託するなど、地域の皆様からの厚い信頼とボランティアによる温かいお支えを受けて現在に至っています。今はコロナ禍で様々な交流活動や行事等が制限されていますが、高齢化が進展する地域の介護、地域福祉の拠点として何ができるかを常に考えながら、50周年を迎えた東海清風園とともに歩みを進めてまいります。

（相良清風園施設長：小林正和）



開園記念会での花束贈呈



20周年記念植樹のハナミズキ

さんいくミャンマーの会 ～チョゾーバーデー～

賛育会の国際活動に参加して、ミャンマーでお世話になり、たくさんの気づきをいただいたメンバーで発足したグループです。

「チョゾーバーデー」とはミャンマー語で「ようこそ」という意味です。どなたでも気軽に参加いただきたいという気持ちを込めて名付けました。離れていても、ミャンマーの人々とお互い様の気持ちで支え合う活動を続けたいと願っています。



これまで4月に活動報告、8月にミャンマー出身の仲間と語る会を企画しました。今後も定期的に開催予定です。よろしく願いいたします。
（さんいくハイツ東あずま：須江みのり）

賛育会特別募金のお願い

賛育会の各施設では「いのちの授業」や「こども食堂」をはじめ、高齢者や子どもの居場所づくり、被災地支援など60を超える地域活動を行っています。

これらの活動は多くの皆さまからのご寄付によって支えられています。

災害や感染症の影響下での病院や施設の運営は、大きな困難に直面しています。活動や交流が制限される状況でも、人々とつながることを願い、あらゆる手段を用いて、賛育会は人と地域に寄り添い続けます。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

- 募金は現金、または郵便振替でお願いいたします。
- お申し出により、募金者のお名前や募金額を非公開にすることも可能です。



San-ikukai Information

感染防止の観点から今年のチャリティーコンサートは開催を自粛いたします。

賛病アーカイブ

写真で感じる賛育会の歴史

*昔の写真と現在の写真を合成しています。



合成作成：小泉美寿氏

歴史フォト

訪問保健婦による
乳児の家庭訪問
1942年（昭和17年）



San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

San-iku通信 Vol.30 2021年 夏号

編集：賛育会法人事務局

発行人：中村 基信

発行所：社会福祉法人 賛育会

印刷：(有)エースプリント (20210813-7000)

社会福祉法人 賛育会

〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8

URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>

お問い合わせ

TEL:03-3622-7614

